役員所感

直前理事長　山岸　匡之

【基本方針】

戦後の高度経済成長、そしてバブル崩壊を経て日本は『成長社会』から『成熟社会』へ移り変わったと言われます。情報処理力によって導き出される正確性と確実性が重視される正解主義・減点主義・短所是正の『成長社会』から情報編集力によって常に新しい発想や価値の創造が希求される修正主義・加点主義・長所伸展の『成熟社会』への移行。国の政策や企業戦略、個人の人生設計に至るまで固有モデルの踏襲や成功事例の模倣では事足らない。すべてが『成熟社会』における多様性を前提に構築されなくてはなりません。

アジアの小国ブータンは、国民総生産（ＧＤＰ）の追求よりも国民総幸福量（ＧＮＨ）の向上を目指すという国家理念を掲げ、経済的な豊かさよりも自然環境や伝統文化など金銭に換算出来ない価値の尊重を国是としているとのこと。世界の人々の幸福感調査によるとブータンは北欧諸国に並び世界全体で第８位、アジア圏でトップに位置している。豊かさや幸せの定義さえ多様化していると言えます。多様化する社会においてこそ求められるのは、自らの確固たるアイデンティティ。そのためには、独自の理想（ｖｉｓｉｏｎ）を掲げ、それに沿った価値基準と行動基準を伴うこと。また持続性と推進力を保つため自らの強みを知り、助長し続ける自己肯定力を養うと同時に、座標軸を見失うことなく調和とバランスを保つための自己客観視力を培うことが大切だと感じます。青年会議所は、戦後復興期に芽生え、それから６０年間一貫して『明るい豊かな社会の創造』を理念に掲げ、社会開発（まちづくり）と人材開発（ひとづくり）に取り組んできました。まさに自らの確固たるアイデンティティと理想（ｖｉｓｉｏｎ）、行動基準と推進力を持った唯一無二の団体と言えます。

２０１１年度社団法人上越青年会議所は、大島理事長を中心に２０１４年までの中期ビジョンであるグランドデザイン・アクションプランを指針とし、これまで以上に地域からの負託と信頼を得られる存在、そして地域のワンオブゼムに甘んじないキラリと光る存在となって参ります。